

第634回

I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

忘れない3. 11

ラグビーの聖地 誇り胸に復興へ～釜石の挑戦～

平成30年10月11日(木)

(株) I B C 岩手放送

第634回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成30年10月11日(木) 午前11時
2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール
3. 委員の出席
- | | |
|---------|------------|
| 委員総数 | 10名 |
| 出席委員 | 7名 |
| 出席委員の氏名 | |
| 委員長 | 田代 高章 |
| 副委員長 | 熊谷 志衣子 |
| 委員 | 龍澤 尚孝 栗田 均 |
| | 菅原 和彦 宮 順子 |
| | 佐藤 求 |
- 会社側の出席
- | | |
|-------|--------------------|
| 鎌田 英樹 | 代表取締役社長 |
| 黒澤 秀之 | 取締役営業本部長 |
| 眞下 卓也 | 取締役放送本部長 |
| 中島 勝志 | 報道局長 |
| 木下 義則 | 報道部東部支社駐在記者・ディレクター |
- 事務局
- | | |
|-------|-----------|
| 若槻 修 | 番組審議会事務局長 |
| 平澤 泰志 | 番組審議会事務局員 |
4. 議題 忘れない3. 11
ラグビーの聖地 誇り胸に復興へ～釜石の挑戦～

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- ワールドカップの開催はゴールではなく、その後はどうつなげていくかが大事であり、開催地の意味が問われるのではないかと、というのが全体的な印象。完成したスタジアムでの高校生のキックオフ宣言は、震災を人生の糧に育ってきた子どもたちの想いが伝わってきた。また、新日鐵釜石ラグビー部OBの「何から何まで立派でなくてもラグビーはできる。被災地として精一杯の努力で構わないのではないかと」というコメントが感慨深かった。
- ここまで何となくとんとん拍子にうまく進んできたような感じに伝わってきたが、これまでどんな困難があつてそれをどう乗り越えてきたのか、さらには残された課題は何なのかについても伝えてほしかった。
- 「復興に向けて、ワールドカップの成功に向けて頑張っていきましょう」というメッセージは伝わったと思う。財源問題や終了後の活用問題に目がいってしまうと、どうしても盛り上がり水を差すようになるので、そこについてあまり触れられていなかったのが逆に良かった。
- 若者に焦点を当てるのであれば、子どもたちがどう捉えているのか、来年に向けてどういうことを意識しているのか、そしてその先のことをどう思っているのか、そういうところを紹介すると、「釜石の挑戦」というテーマがもう少し明確になったかもしれない。
- 釜石の人たちの想いが伝わってきて、遠くからでもサポートしようと思わせるようなメッセージ性があったと思う。
- 釜石のラグビーの歴史と今の高校生に焦点が当たっていたが、どちらかというと歴史のほうが知りたかった。